

2) 子どもの貧困対策について

格差が拡大するなか、子どもの貧困対策が喫緊の課題となっています。比較的富裕層が多いといわれている箕面市においても、貧困問題は深刻な課題のひとつであるにとらえています。

① 箕面市における子どもの貧困にかんする認識について質問します。

箕面市の就学援助を受給する児童・生徒数は年々増加しています。ひとり親帯に支給される児童扶養手当受給者数も同様です。土日の子どもの居場所では、昼食をとらずにお水を飲んで空腹を凌いでいる子どもを見かける、という実態も聞かれます。子どもの貧困についての現状把握や実態調査について、市のお考えを伺います。

9月議会では「子どもの貧困の連鎖根絶をめざすプロジェクト」の検討がすすめられている、とのことでしたが、現在の進捗はどのようになっているのでしょうか？

(このご答弁に対し、再質問を考えています)

また、ひとり親家庭の半分は貧困状態にあるといわれています。そのような家庭の子どもは、辛いことや、欲しいものがあっても親への配慮から自分のなかでぐっと我慢をして、言わない、というケースがあるようです。このような子どもの声を聴く場や窓口が必要であると考えます「いじめ体罰ホットライン」はありますが、もっと広い範囲で子どもの思いを受け止め、相談にのって寄り添うことができる体制づくりが必要であると考えますがいかがでしょうか。

また地域との連携で、子どもの居場所があり、子どもが親以外のおとなと触れ合い、成長できるような場が必要ではないでしょうか？

他市で展開されている「子ども食堂」など、飢えと寂しさに向き合うとりくみについて、箕面市でもNPOが少し取り組まれています。東西に広がる箕面において、さまざまな地域で市民協働でとりくみができればと考えますが、いかがでしょうか？